

論文番号 67

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Alcohol consumption, metabolic cardiovascular risk factors and hypertension in women

女性における飲酒と代謝系危険因子・高血圧との関連

執筆者

Kiran Nanchahal et al.

掲載誌(番号又は発行年月日)

IEA 29; 57-64,2000

キーワード

女性、飲酒、危険因子、心疾患、高血圧、安全な量

要旨

(背景) 程良い飲酒は、死亡率低下に関連しており、特に虚血性心疾患では顕著である。しかし、多量飲酒は死亡率を増加させ、脳内出血と循環器疾患以外の疾患を引き起こす。そこで、危険因子と効果の両面から考慮した時の飲酒量の適正な「いき値」を明らかにすることは重要なことである。そこで、女性における、飲酒習慣と循環器疾患危険因子、10年間の虚血性心疾患危険スコアと高血圧の報告から求めてみた。

(方法) 循環器疾患危険因子スクリーニングを受けた、30歳から64歳の女性14,077名を対象とした。情報として、生活習慣、身長、体重、血圧、脂質、リポたん白値、アポリポたん白値と血糖値を用いた。年齢調整は飲酒量5カテゴリー(非飲酒、1-7、8-14、15-12、22g以上/週)毎に、それぞれ危険因子を比較した。アルコールと心疾患危険スコアと高血圧の関連もみた。

(結果) 飲酒量が増加するに従って、年齢調整した時の、HDL-コレステロール値とアポリポたん白A1は増加していた($p<0.001$)。肥満度、総コレステロール値、TC/HDL-C比、LDL-コレステロール値、アポリたん白B($p<0.001$)は減少していた。またトリグリセリド($p=0.06$)、リポたん白($p=0.09$)、グルコース値($p=0.14$)は有意差がみられなかった。交絡因子を除くための調整した解析を行っても、LDL-コレステロール値は有意であった。非飲酒群と比較して、飲酒量が増加するとともに、10年間の虚血性心疾患リスクは減少していた。最も低下していたのは、週に1-7ユニット飲酒する女性であり(0.79; 95%CL: 0.72-0.87)週に15-21ユニットでは高血圧の有病者の割合が増加していた(OR=1.68; 95%CL: 1.14-2.46)。

(結論) この研究は、女性におけるアルコール摂取と虚血性心疾患の関連が負の関係であることを示すものであり、脂質やリポたん白の危険因子を適した方向に変化させることが示唆された。また、週に1-14ユニット飲酒する女性が虚血性心疾患を下げる事が明らかになった。しかし、週に15ユニット以上飲酒する群では、高血圧の有病率を高めていた。この研究で、循環器疾患のリスクを下げることで、女性にとって週14ユニット以下のアルコール摂取が適切であることが示された。